

編集後記

昨年度から引き続いている新型コロナウイルスの感染は、いっこうに止まることがない。国内では、政府や行政機関による自粛要請は頻発されるものの、肝心の検査体制やワクチン接種については、この時点ではまだ予測のつかぬ状態である。一方、英米ではワクチン接種終了率は国民の50%に近づき、国によってはマスクなしの外出や、国同士の渡航制限解除さえも見られる。トップクラスの先進国と自負していたはずのこの国は、いったいどうなってしまうのだろうか、という不安が拭えない。オリンピックという莫大な出費を要する祭りを推進しながら、他方では国民の10%強にしかワクチン接種完了ができていない現実を見ると、国家としての衰退が進んでいることさえ実感せざるをえない。

ただこの渦中でも希望はある。パンドラが箱を開けてしまった最後に、たとえ微小ではありながら希望が残ったように。それは私たちが、学生という次世代の人間たちを育成しようとしている点である。この学生たちを、残された希望と考えずして、何が残っているのだろうか。そのために、私たちは過去から学び、そして考え、言葉にして伝えていく誇りと義務がある。今、それをあらためて自らに問い直す機会としたい。

本紀要第81号では、特集「東日本大震災からの10年、その現実と変容」と題し、9名の方々よりの貴重な原稿を頂戴した。ここに心よりの感謝を申し上げます。また4編の論文（翻訳を含む）、2編の研究ノート、1編の資料、の投稿をいただきました。またお名前は出せませんが、査読者の方々には、お忙しい中を突然お願いしましたが、心良くお引き受け頂き、厚く御礼申し上げます。

紀要への投稿は、随時受け付けています。投稿を希望される方は、本学図書館の窓口において、所定の資料をお受け取り下さい。「紀要執筆要項」「『紀要』投稿規程」に従い、完成原稿をご用意いただき、図書館窓口にご提出ください。投稿原稿は、委員会規程による査読審査を経て、その結果を書面でお知らせいたします。

次号『紀要』第82号では、2021年4月1日から9月21日（火曜日）16:00までにいただいた原稿を、審査の対象とし、お預かり次第、委員会による検討を開始いたします。どうか奮ってご投稿ください。当委員会は本学の教育・研究を公にするための独自の組織として、今後も努めてまいりますので、よろしく願い申し上げます。

紀要編集委員会

委員長 小原 俊文

尚綱学院大学『紀要』編集委員会

○小原 俊文 一條 玲香 菊池 哲彦 杉山 芳宏
(○紀要編集委員長)